



題字 井口 文章
再刊 第513号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2026

みんなでつくる
錦城高校新聞

☆卒業生特別号
一面：卒業を祝う会・視聴覚演劇特別公演
二面：3学期の学校のニュースをダイジェスト

Happy Graduation!

～3年間を共にした仲間と～

61回生卒業を祝う会 開催

3月16日(月)、61回生の卒業を祝う会が行われた。今回のテーマは「対決」。特進コース対進学コースの負けられない戦いが繰り広げられ、最終的には特進の勝利で幕を閉じた。ここにその様子をお伝えする。(編集部共同取材)

オープニングセレモニー

久々の友との再会に笑顔の中行われたオープニングセレモニー。最初に流れた動画では、3年間の思い出を写真で振り返ったり、進学が特進を特進が進学を挑発しあうようなノリノリのラップが行われたりした。ラジオ体操の後、陽気な音楽とともに舞台の幕が上がると、教員による腕立て伏せ耐久戦がスタート。後藤先生の「ノリが足りないー!応援しろよー!!」というあおりに生徒の熱気が高まる。次々と先生方が離脱していく中、最後は郷野先生と芦澤先生の「一騎打ち」に。芦澤先生が勝利を収め、オープニングセレモニーは終了した。

体育祭

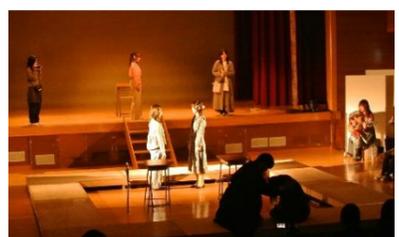
1種目は「障害物競走」はグルグルバット、ポトルフリップ、先生じゃんけんなどの障害物を潜り抜けて次の走者にバトンを渡す種目。走者が決め台詞を言う障害物では、「愛してるよ♡メリークリスマス♡」や「キムキムメロメロビーム発射だニヤン」などの台詞で会場は盛り上がった。また、小麦の中から飴を見つけ出す障害物では、K組のアンカーが小麦を全身に被ってからゴールした。1試合目の結果は1位がJ組。2試合目は1位がE組となった。



「心をついに、絆をついに、パンツをついに」(実況) 一心同体となってパトンのパンツを繋ぐ

卒業間近の3年生へ

卒業生主宰の劇団 無料公演



繰り広げられるドラマにくぎ付け

3月10日(火)の放課後、多目的ホールにて、視聴覚演劇特別公演が行われた。錦城46回生の谷口航季さんが主宰する劇団「IMG」が錦城にきて、公演してくださった。公演された『明日の卒業生たち』は谷口さんが脚本と演出を手掛けたもの。4月からは一般に公演されるそうだ。錦城をモデルにした「明城高校」を舞台に、4つの時代を生きたる人

心のこもった装飾が学校を彩る

一昨日の卒業を祝う会から、61回生の卒業を祝って校内が飾り付けられている。生徒会が企画し、HR委員をはじめとした全校生徒が協力して装飾を制作した。

生徒会副会長の石井裕那さん(1J)がこだわったという階段横のパーテーション。入り口から豪華にしようと思って作ったそう。「パステルカラーの風船で可愛く仕上げたのがポイントです」と話してくれた。



生徒会長の神田陸翔さん(2G)は、今日卒業する61回生に向け「これから先、晴れの日ばかりでなく、雨や嵐の日もあるかと思いますが、でも、迷う私たちを明るい方へと導いてくれたように、自分たちの光を信じて突き進んでください。先輩方のこれからの活躍を、心から願っています!」とメッセージを送った。



3年生の教室に描かれた黒板アート

「サカナは眠らない。にやめる SUPER BEAVER の名前を呼ぶよ。」というエッセイを書かせる。



錦城高校ダンス部によるダンス。動きのそろったキレイなダンスで会場を沸かす。退場までかっこよかった。



最後は3対3の決戦となり、僅差で進学系が獲得し、進学の勝利に終わった。

練習の成果が華麗に輝く

ダンス部定期公演「YOUR STORY」開催



パワフルでダイナミックなダンス

3月12日(木)と3月14日(土)、ダンス部の春公演「YOUR STORY」が開催された。最初は全員が揃いのスタイリッシュな衣装でダンスを披露し、続いて行われたのはダンスのジャンルと学年ごとに分かれてのパフォーマンス。ロックダンスは、リズムに合わせたキレイのある動きで会場を沸かせる。躍動感溢れる踊りは圧巻だった。男子のブレイクダンスは、仲間を飛び越えたり踏み台にしたりダイナミックな動きで迫力満点。技が成功した時には歓声があがった。ジャズダンスは、指先までそろった優雅なダンスだった。しなやかで力強い姿や、バレエのような美しい様子に思わず魅了される。ピートに乗ったクールなパフォーマンスを見せたのはヒップホップダンス。観客席からは出演者の名前を呼ぶ声も上がった。最後は全員がきらびやかな衣装をまとって踊る、華やかなフィナーレで幕を閉じた。



軽やかなステップで踊る

部長の荒井美音さん(2K)は「ダンス部の発表を見てくださりありがとうございます。この発表を通して私たちの思いを皆さんに伝えることができた嬉しいです」と感謝を語った。(鳥)

61回生の編集後記

蘭 藤井喜寿人委員長

仏 萩原優璃

泰 岩崎優那

3年間、ご愛読ありがとうございました。委員長として、紙面制作の先頭に立ち、活動を続けてきました。が、うれしかったこと、上手にいかないこと、辛いこと、たくさんありますが、私にとって新聞委員として過ごした時間の全てが大切な思い出です。これからも錦城高校新聞委員会が発展していくことを願っています!

普 橋本明季副委員長

瑞 小尾瑞希

比 久保凱世

取材や記事を通じて誰かの人生の一端を担うという重みに触れ、悩みながらも書き続けた3年間でした。大変なこともありましたが、その分、自分の中で一番成長できた時間だったように思います。ここで出会った仲間や取材先の方々と紡いだ経験は、何にも代えがたい宝物です。これからも錦城新聞をよろしくお願ひいたします。

3学期 ダイジェスト版

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。裏面では3学期の様子をダイジェストでお届けします！
(編集部一同)

修学旅行「雪国での非日常を楽しむ」

1月26日(月)から1月30日(金)まで62回生が蔵王修学旅行を行った。今年は1日目にクラスごとに用意された3コースから各クラスごとに選んだ場所へ行くなどの新たな試みが行われた。5日間の様子をお伝えする。
(62回生共同取材)

1日目
上野駅から始まった修学旅行は2時間弱の新幹線の移動から始まった。車内ではトランプや人狼ゲームで盛り上がる生徒も多かった。
到着した仙台駅からはクラスごとにバスでの移動となる。コースは全部で3つ。B・C・D・F・G・H・K・L組

は仙台の杜水族館と山元いちご農園を訪れ、圧巻のイルカショーや東北の美味しいいちごを満喫した。
E組は笹かま焼き体験といちご狩り体験を行った。宮城ならではの笹かまを各々が好きな焼き加減で楽しんだ。
A・I・J・M組は松島観光を行った。全員で遊覧船に乗り、松島湾をめぐった後に自



松島を背景に記念写真

由行動となった。
自由行動では友人同士で牡蠣を食べたり、観光スポットに行ったりと生徒たちは非日常を満喫した。

スキー
修学旅行の大部分を占めるスキーは2日目から5日目の3日間にわたって行われた。初心者や経験者、B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L組に分かれ、蔵王の良質な雪でのスキーを楽しんだ。

初心者は初日は低いところから基礎的な練習を重ねた。リフトに乗って高いところからの滑る練習が始まると、「止まんない、止まんない」と叫びながら暴走する錦城生も見られた。しかし、最終日には初日と比べ物にならないほどスキーが上達し、樹木を見ない高

最終日には体験学習が行われた。A組は山形の伝統工芸品であるお鷹ぼっこの絵付け体験、D・F・H・I・K・M組は七右衛門窯で山形市の清水焼の陶芸体験、L組は天童市の特産にちなみ、彫り駒体験、B・G組は和菓子作り体験、C・E・J組は国産の大豆や麹をふんだんに使った贅沢な味噌作り体験を行った。生徒たちにとって、それぞれのコースで伝統的なものに触れ、良い経験となった。



息をのむような雪景色

温泉街を見下ろしたりと景色を楽しめるようになった。
経験者班のM組は初日からリフトに乗り、足慣らしとして比較的易しいコースを滑った。ふかふかの新雪に足をとり、バランスを崩す生徒もいた。2日目を以降はインストラクターさんの丁寧な指導の下、パラレルターンも、人数の少なさをゆえにクラス混合の班となった。違うクラスの人も仲良くなり、楽しんで滑れたようだ。



仲間と過ごした思い出の一枚

行われ、陸上競技部女子1チーム、男子3チーム、さらに錦城教員有志が3チーム出場。錦城高校女子チームが一般女子の部で優勝、陸上競技部男子の部で3位を獲得した。大会後、男子区間賞をとった選手と、優勝した女子チームに話を聞いた。男子の2区区間賞を獲得した増田一秀さん(2J)は「今大会は男子3連覇がかかっていたので悔しいです」という。同じく4区区間賞の山形世晃さん(1C)は大会直前で怪我をしたが、本人の予想を超えて良いタイム

だったそう。
女子の1区を走った菊池理沙さん(2G)は、昨年より15秒速く走れたそう。「ベストを叩き出せて良かった」と振り返った。最後に一位の走者を抜かすことができたという3区の大野彩希さん(1B)は「来年も一位目指して頑張りたいです」と意気込んだ。
教員有志チームで出場した榎本先生はレース後、「昨年より21秒縮めることができ、嬉しかったです」と満面の笑み。小高先生は「応援してくれる人がいて嬉しかったです」と話した。(水・梅)

冬も元気に部活活躍中!

映画研究部

映画研究部が、1月25日(日)に行われた関東地区高校放送コンクール(関東大会)で、8作品中ベスト4に相当する優良賞を受賞した。作品タイトルは『小平のヒーロー』その名は、『』で、1年生が制作した。今回制作班の中心をつとめた伊藤旭陽さん(1B)は「喜びも感じるが悔しさも感じた」と振り返る。部員の



機材の準備をする部員

陸上部

2月1日(日)、小平公民館をスタート地点として「第46回こいだいら市民駅伝大会」が

などのこだわった部分で観客が笑って喜んでくれたことが嬉しかったと語った。
今回の大会は東京で行われたため、都内の生徒が運営ス

2月17日(火)に合唱祭がルネ小平大ホールで開催された。今年1年生の審査は書道美術クラスと音楽クラスで行われた。

奏思奏愛 努力芽吹かせて 合唱祭開催!

合唱祭開催!

2月17日(火)に合唱祭がルネ小平大ホールで開催された。今年1年生の審査は書道美術クラスと音楽クラスで行われた。

1年生書道美術クラスの部で金賞に選ばれたのは「空も飛べるはず」を歌った1年D組。合唱祭実行委員の鈴木野月さん、ハチエト スーミンさん、谷口裕哉さんによると、金賞の結果を知った時は驚いたそう。スーミンさんは担任の小向理緒先生に言われた「笑顔で歌う」ことを意識したそうだ。

2年生の部で金賞に選ばれたのは「アイノカタチ」を歌った2年G組。合唱祭実行委員の根来宏輔さんはG組の良さを生かせるようにソロを入れるなどの編曲をしたそうだ。

最優秀指揮者賞に輝いたのは鈴木陽翔さん(2M)。鈴木さんのクラスは「水平線」を歌い、見事銀賞も受賞している。より良い指揮を振れるようにとメトロノームに合わせて練習もしたと話す鈴木さん。クラスメイトにアドバイスをもらうなどして指揮の精度を上げたそう。みんなと上達できて良かったと話し、11時から15時まで行われた合唱祭中に生徒がお昼ご飯を食べられなかったこと、おなかが減る人が多かったこと、強弱にこだわったという。クラスに対し「みんな短い期間でここまで仕上げられてよかったです」と話した。



堂々とした指揮



金賞1D「笑顔で歌う」ことを意識

1年生音楽クラスの部で金賞に選ばれたのは「115万キロのフィルム」を歌った1年B組。ソロパートを担当した木村さくらさんは「練習を頑張ってきたのでとても嬉しかったです」と話す。実行委員の辻知果さんは「強弱の付け方などの細かい所までこだわったことが金賞につながったのだと思います」と振り返った。

同委員の小沢りきさんは「学級閉鎖などで練習できた日は少なかったですが、みんなよく練習してくれていて1発目からまとまってました」と話してくれた。

金賞2G ソロを入れる編曲も

最優秀伴奏賞に輝いたのは山本拓実さん(2H)。賞を飯を食べられなかったこと、おなかが減る人が多かったこと、強弱にこだわったという。クラスに対し「みんな短い期間でここまで仕上げられてよかったです」と話した。

BREAKING NEWS

自販機に謎商品?



商品がランダムで2つ出てくる自販機が3学期から登場した。気になる人は購買前の自販機へGO!

←4日目のお昼の生徒が食べた クラムチャウダー。冷えた体に染み渡ったそう



閉校式で感謝の気持ちを込めてお世話になったインストラクターさんに班員で寄せ書きを書いた班旗を渡す生徒。



←部屋でくつろぐ生徒たち。カードゲームで盛り上がった部屋も。



中央委員会 生理用品設置に向けて

2月7日(土)から、女子トイレで行われている生理用品の試験設置。中央委員会が「必要な時に、必要な人が、安心して学校生活を送れる」ことを目的として企画した。生徒部・養護教諭も管理の下、保健委員会が点検を担当している。
生理用品の設置について、今回は中央委員会一般委員で管理の金子優歩さん(2H)が中心となり、企画書を作って進めたという。金子さんは、都立などでは置かれている生理用品が錦城では設置されていないことに疑問を感じたことがきっかけだと語る。必要とする人が気軽に使用できることを目指し、昨年11月から検討を進めた。生徒の意見を集めるのが大変だったという金子さん。クラスルームや校内放送を利用することで、最終的には250件以上の意見が集まり、中央委員会の企画として学校に認められたそう。
生理用品を実際に使用したという1年生のAさんは生理用品を持っていたが使うことになった時はトイレに持っていったいなかったようで、「急に生理になったときだったから、すぐ助かりました」と振り返った。着心地も良かったようで、他の生徒からは「安心して授業に集中できました」という声が上がった。利用したことのない女子生徒からも、「生理用品がトイレにあったら便利だなと思ったことがあったので、錦城にも設置されてうれしいです!より安心して学校生活を送れるようになります」という声が出る。記者が先日設置場所を確認してみるとかなり数が減っており、実際に生徒からよく利用されているようだ。
試験設置は3月12日(木)までで今は設置されていない。これから行われる予定のアンケートで生徒から過半数の賛成があった場合、1年間の実施が決まるという。ただし、生徒の利用状況も問われるため、中央委員会の金子さんは「必要な分だけ使用すること。家に持ち帰らないこと。丁寧に扱うこと。この3点を守って、責任ある行動を心掛けましょう!」と呼びかけた。(藤・綿)



「責任ある行動心がけて」